

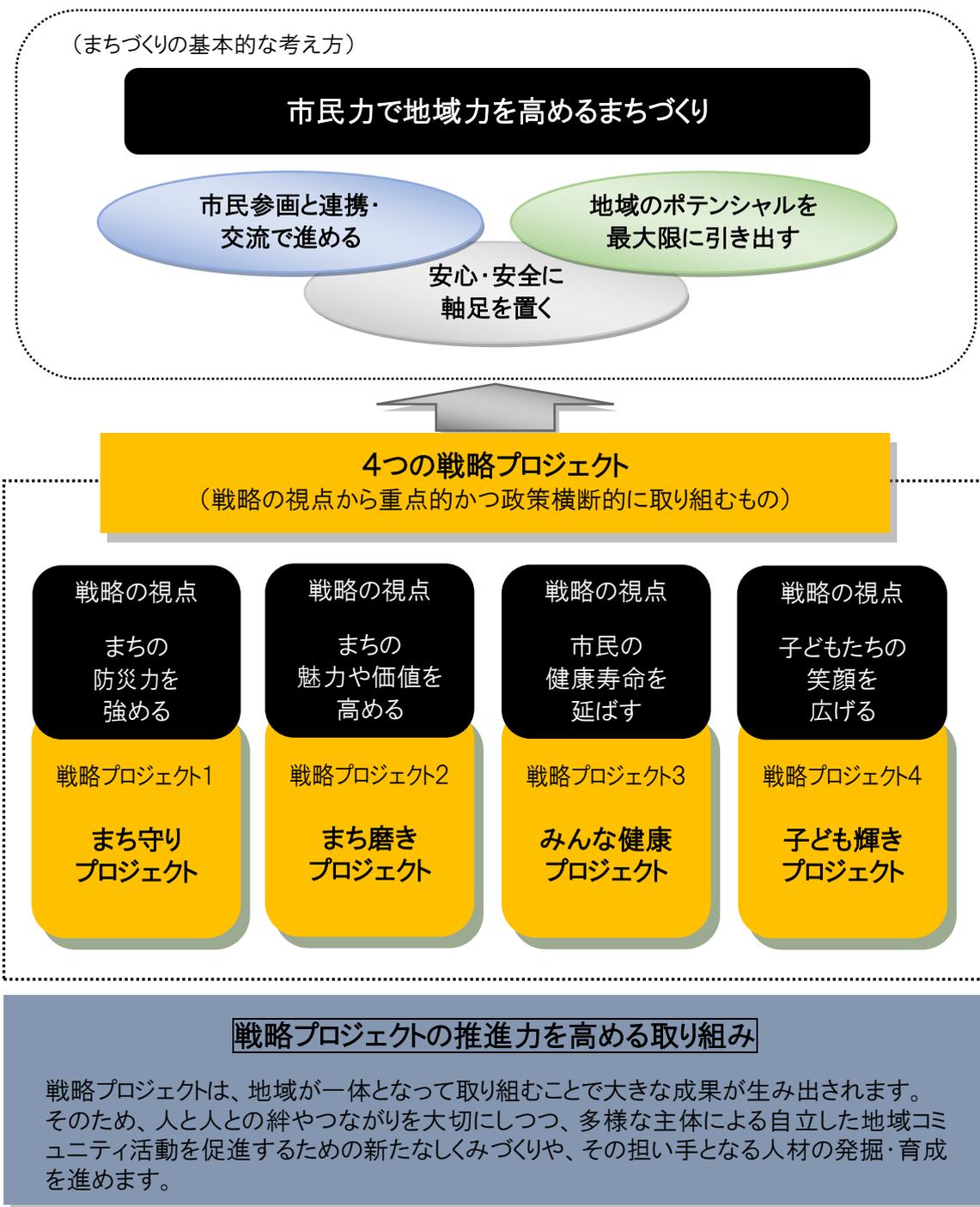
# 第 1 次亀山市総合計画・後期基本計画 戦略プロジェクトの総括

## 目次

1. 戦略プロジェクトの位置づけと役割について .....	2
2. 各プロジェクトの評価.....	4
(1) まち守りプロジェクト まちの防災力を強める .....	4
(2) まち磨きプロジェクト まちの魅力や価値を高める .....	5
(3) みんな健康プロジェクト 市民の健康寿命を延ばす .....	6
(4) 子ども輝きプロジェクト 子どもたちの笑顔を広げる .....	7
(5) 戦略プロジェクトの推進力を高める取り組み .....	8
3. 全体総括.....	9

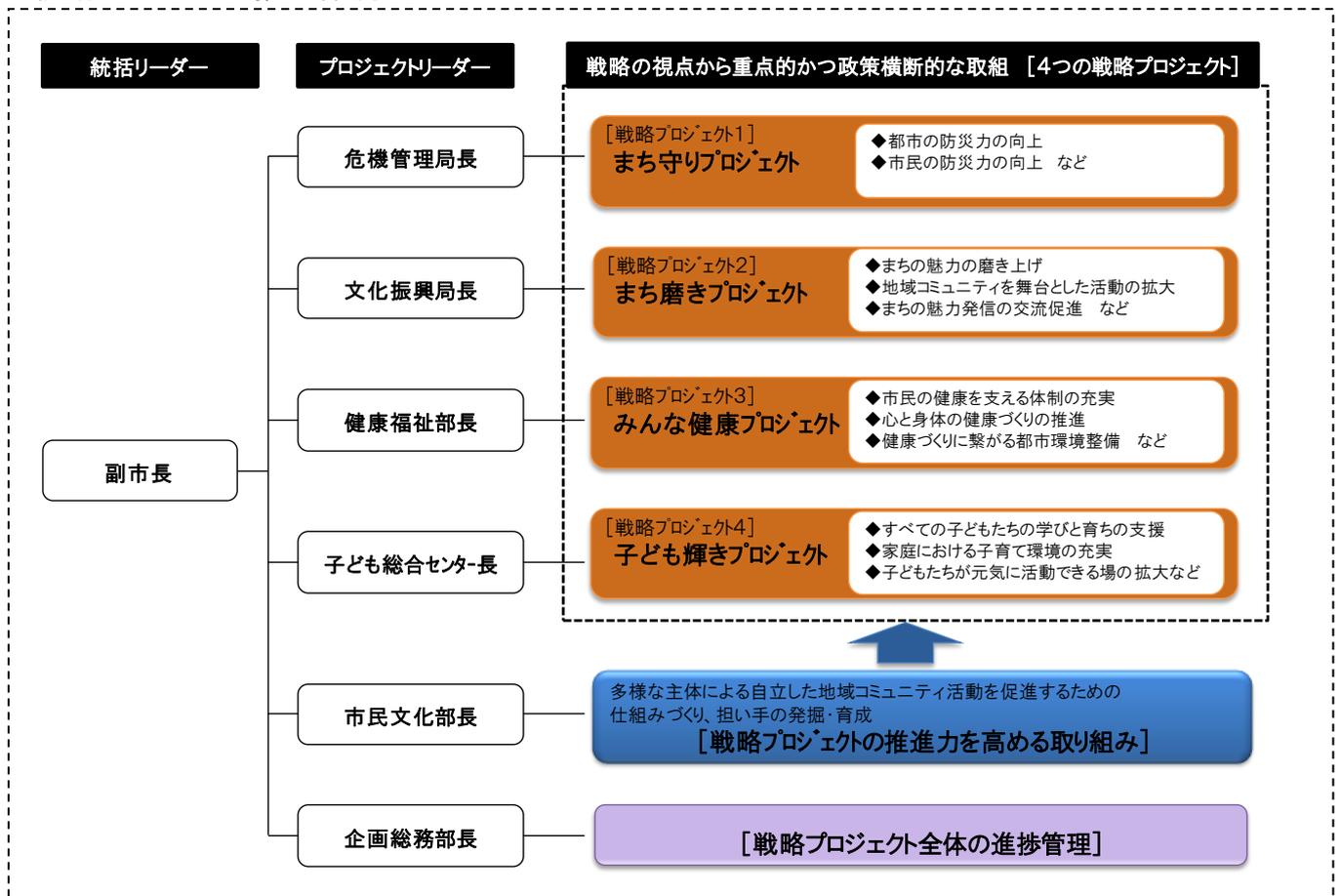
# 1 戦略プロジェクトの位置づけと役割について

プロジェクトの位置づけと役割	<p>戦略プロジェクトは、基本構想における将来都市像「豊かな自然・悠久の歴史 光ときめく亀山」を実現するための基本的な考え方である「市民力で地域力を高めるまちづくり」を進めるため、外部環境の変化や前期基本計画の評価などを踏まえたなかで戦略の視点を明らかにし、その視点に基づいて重点的かつ政策横断的に取り組むものである。</p> <p>後期基本計画では4つの戦略プロジェクトを設定し、関係する政策・施策を連動させることで実効性や相乗効果を生み出し、後期基本計画の計画推進力を高めようとするものである。あわせて、戦略プロジェクトは、市民と行政との協働を基本に据え、各主体の力を結集して取り組みを進めていくものである。</p>
----------------	--



<p>戦略プロジェクトの推進体制</p>	<p>●戦略プロジェクト推進会議 (所掌事務) 戦略プロジェクトの推進を図るため、「亀山市戦略プロジェクト推進会議」を置き、推進会議の所掌事務は以下のとおりとする。 (1) プロジェクトの推進に係る連携方策に関すること (2) プロジェクトに係る関係業務の連絡調整に関すること (3) その他設置目的を達成するために必要と認められること (組織) 推進会議は、統括リーダー及びプロジェクトリーダーをもって組織し、統括リーダーは副市長を、プロジェクトリーダーは企画総務部長、市民文化部長、健康福祉部長、文化振興局長及び子ども総合センター長をもって充てる。 (推進チーム) 推進会議は、その補助機関として、戦略プロジェクト推進チームを置くことができる。推進チームは、プロジェクトに関する事項について研究及び方策の検討を行い、その経過及び結果を推進会議に報告する。</p>
<p>推進会議開催数</p>	<p>16回</p>

### 戦略プロジェクトの推進体制



## 2 各プロジェクトの評価

### (1) まち守りプロジェクト まちの防災力を強める

プロジェクトのねらい	<p>東日本大震災や集中豪雨の発生等により、以前にも増して防災・現在に対する市民の関心が高まっている。</p> <p>そこで、災害に強いまちづくりを図るため、都市の防災対策はもとより、家庭や地域等における自助・共助を中心とした市民の防災力の向上を図るなど、東海・東南海・南海地震や台風などの災害から市民生活を守る取り組みを進める。</p>
ねらいに対する評価	<p>災害に強いまちづくりに向けて、主に「公助」の部分である「都市の防災力」と、主に「自助・共助」の部分である「市民の防災力」とを車の両輪として、充実・強化に努めてきた。平成24年には、歴史的なつながりの深い岡山県高梁市や青森県五所川原市と災害時相互応援協定を締結し、大規模災害発生時の早期復旧を可能とする自治体間の連携基盤を強化することができた。また、平成27年には、一般社団法人三重県建築士事務所協会との間で、地震等災害時の応急対策活動の協力に関する協定を三重県内市町で初めて締結し、市民の安心、安全の確保を図るため、指定避難所等の応急危険度判定等への協力を得ることで迅速な災害対応が可能となり、まちの防災力を高めることにつながった。</p> <p>しかし、特にハード面の整備は時間と費用を要することから、まだまだ道半ばであり、まちの防災力を高めるためには、できる限りソフト面の充実を先行させていくことが求められる。</p>
今後の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域まちづくり協議会を核とした地域の防災力の強化</li> <li>・高齢者や障がいのある人など避難行動要支援者を地域で支えるしくみの浸透</li> <li>・地域の実情や技術革新に応じた総合的な防災情報伝達システムの構築</li> <li>・震災発生時の応急対策や直後の復旧対策、中長期的な復興対策の考え方の整理</li> </ul>

プロジェクトリーダー	危機管理局長
戦略プロジェクト推進チーム	まち守りプロジェクト推進チーム
関連組織	—
会議開催回数	24回
推進チームで取組んだ主なテーマと成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主防災組織の組織力強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区コミュニティ別の現状と地域特性の把握</li> <li>・既存の地域組織等と自主防災組織との関係整理</li> <li>・地域防災訓練の訓練項目と特性の整理</li> <li>・プロジェクトワークの取組骨子と展開イメージの整理</li> </ul> </li> <li>2. 災害時要援護者支援の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時要援護者支援の強化に向けての課題と今後の方向性の整理</li> <li>・課題と今後の方向性に基づく、具体的な支援策とその行程の素案の作成</li> </ul> </li> <li>3. 総合的な防災情報伝達システムの構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報伝達手段の現状及び課題の整理</li> <li>・防災情報伝達システムの基本計画の策定</li> </ul> </li> </ol>

## (2) まち磨きプロジェクト まちの魅力や価値を高める

プロジェクトのねらい	<p>長引く景気の低迷等により、持続可能な地域社会の構築が求められている。また、地方分権が進むなかで、地域の特色を活かした取り組みの重要性が高くなっている。</p> <p>そこで、本市特有の豊かな自然や歴史文化、都市施設、産業などの付加価値を磨き上げるとともに、磨き上げたまちの魅力を幅広く発信し交流の促進につなげるなど、まちの魅力や価値を高める取り組みを進める。</p>
ねらいに対する評価	<p>歴史資源、自然資源、産業資源などを活かした魅力づくりやそれぞれの資源磨きに様々な団体が取り組み、地域固有の資源の魅力を高めたり、新たな資源を発掘するという点では、平成 26 年度に「みつめる」をテーマに実施した「かめやま文化年事業」において、自らの住む地域に愛着や誇りを持つ契機を創出することができた。</p> <p>しかし、その資源を十分活用するべく、効果的にまちの良さを発信できるまでには至っていないことから、今後、シティプロモーションの方向性を示し、ターゲットを見据えた効果的な情報発信が求められる。また、より多くの市民や市民活動団体、企業などがかかわることによって、その連携・協働の中から、まちの魅力や価値を引き出し、集客交流などにつなげられる資源に高めていくことが求められる。</p>
今後の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民及び市民活動団体、企業との連携・協働</li> <li>・まちの魅力や固有の価値を発信することによる交流促進</li> <li>・多様な魅力を強力にアピールしていくシティプロモーション活動の展開</li> </ul>

プロジェクトリーダー	<p>文化振興局長（H25～） 文化部長（H24） ※サブリーダー 関支所長（H26）</p>
戦略プロジェクト推進チーム	まち磨きプロジェクト推進チーム
関連組織	かめやま文化年庁内調整会議
会議開催回数	14回
推進チームで取組んだ主なテーマと成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. まち歩きの調査研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市事例から見た「まち歩き」の形成要件の整理</li> <li>・本市における取組み展開上の前提要件の整理</li> <li>・取組展開エリアの設定</li> <li>・市民活動団体との意見交換</li> </ul> </li> <li>2. かめやま文化年の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・かめやま文化年に関連する事業の洗い出し</li> <li>・かめやま文化年カレンダー(素案)の検討成</li> </ul> </li> <li>3. シティプロモーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市のシティプロモーションを検討する上での現状把握と課題整理</li> <li>・本市のシティプロモーションの目的、目標、位置付け</li> <li>・本市のシティプロモーションの基本方策</li> </ul> </li> </ol>

### (3) みんな健康プロジェクト 市民の健康寿命を延ばす

プロジェクトのねらい	<p>急速な少子高齢化の進展や生活習慣病患者の増加、医療給付費の増加による社会保障制度への不安などを背景に、日常的な介護を必要とせず心身ともに自立して暮らすことができる健康づくりへの取り組みが求められている。</p> <p>そこで、健康都市連合の加盟都市でもある本市は、市民の健康を支える体制の充実や心と身体の健康づくりの実践など、市民の健康寿命を延ばす取り組みを進める。</p>
ねらいに対する評価	<p>市民の健康寿命の延伸に向けて、市民が主体的に取り組む健康づくり活動を支えるための機会や場づくりと人材育成の一環として、地域まちづくり協議会単位での健康づくり応援隊養成講座に取り組んだ。また、身近な地域で安心して医療や介護サービスが受けられるよう、医療・介護・福祉の多くの専門職の協力を得て、地域包括ケアシステムの一環として在宅医療連携システム「かめやまホームケアネット」を開始し、切れ目なく必要なサービスが提供できる支援体制を整備した。さらに、亀山市の自然資源や食を活かした活動、産学連携による健康講座など、特徴的な取り組みが展開され、地域に根付きつつある。</p> <p>今後、高齢化が一層進展する中では、誰もが生きがいを持ち、若年層から高齢者まで地域の中で、活躍できる場をつくっていくことが重要である。また、健康都市の考え方を踏まえると、まちの健康についても視点を広げていく必要がある。</p>
今後の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い世代が参加し、地域で行える健康づくり活動の全市的な展開</li> <li>・誰もが生きがいをもって暮らせるよう、まちの健康まで視点を広げた取組の推進</li> </ul>

プロジェクトリーダー	健康福祉部長
戦略プロジェクト推進チーム	みんな健康プロジェクト推進チーム
関連組織	地域医療再生プロジェクトチーム
会議開催回数	18回
推進チームで取組んだ主なテーマと成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における健康づくり活動の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歩く」健康をコンセプトとした「歩コウ活動」の展開イメージの整理</li> <li>・健康都市連合加盟市として、全市的に「歩く」を含めた健康づくりの取組の市民アピール案の検討</li> <li>・モデル地区(川崎・昼生)での健康づくり応援隊の検証と新たな展開方針の検討</li> </ul> </li> <li>2. 地域医療再構築プランの策定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療再構築プラン(案)の策定</li> <li>・地域づくり応援隊養成講座の開始</li> </ul> </li> </ol>

#### (4) 子ども輝きプロジェクト 子どもたちの笑顔を広げる

プロジェクトのねらい	<p>人口減少社会の到来や少子化の進展により、子どもを安心して産み育てることができ環境づくりが求められている。また、本市では子ども総合センターを中心に健全な子どもの育成に積極的に取り組んでいる。</p> <p>そこで、本市の特色でもある「子育てにやさしいまち」の充実を図るため、すべての子どもたちの学びや育ちを支え、元気に活動できる場を広げるなど、子どもたちの笑顔を広げる取り組みを進める。</p>
ねらいに対する評価	<p>「子育てにやさしいまち」の充実に向け、平成 27 年 3 月、子どもたちが健やかに生まれ育つ環境を整え、子育て支援の充実を図るため、「子どもの笑顔が輝く子育て支援のまち かめやま」を目指して、亀山市子ども・子育て支援事業計画を策定した。</p> <p>平成 27 年度には国の地方創生先行型交付金事業を活用した「かめやまげんきっこ育成事業」により、乳幼児期の運動活動を促し、子どもの健康的な生活を営む力を養う取組を実施したほか、平成 28 年度から就学前教育・保育のモデル園として、市内で初めてとなる認定こども園アスレを開設するなど、子育て支援の充実を図った。また、子育て家庭の就労支援や放課後児童の安心・安全のため、放課後児童クラブの増設や放課後子ども教室の全市域での展開に積極的に取り組んできた。さらには、小学校入学という環境の変化によって子どもたちが直面する「段差」を解消するため、平成 27 年から亀山市保幼小接続カリキュラムを本格的にスタートし、就学前教育・保育から小学校教育への円滑な接続を図るとともに、支援が必要な子どもに対する切れ目のない支援を、子ども総合センター・子ども支援室を中心に継続して実施してきた。</p>
今後の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や地域の協力を得た「子ども・子育て支援事業計画」の推進</li> <li>・妊娠から子育てまでを一貫した体制でトータルサポートを行う質の高い子育て支援策の推進による、本市への子育て世帯の定住促進</li> </ul>

プロジェクトリーダー	子ども総合センター長（H25～） 教育次長（H24）
戦略プロジェクト推進チーム	子ども輝きプロジェクト推進チーム
関連組織	亀山市保幼小中等連携協議会
会議開催回数	28回
推進チームで取組んだ主なテーマと成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼保統一カリキュラムの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園の事務連携の現状等の整理</li> <li>・幼児教育に関する指針(案)の整理</li> <li>・就学前の家庭教育の向上に関するリーフレットの作成と周知</li> <li>・幼保小接続カリキュラム(H25-26 試行版)の策定・実践</li> <li>・亀山市幼保小接続カリキュラムの開始</li> <li>・亀山市保幼共通カリキュラムの策定</li> </ul> </li> <li>2. 子ども・子育て支援事業計画の策定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園の施設現状及び就学前児童数の推計の整理</li> <li>・就学前・後の保育等のニーズの把握</li> <li>・就学前保育・教育関連施設等の最適化に関する検討報告</li> <li>・子ども・子育て支援事業計画の策定</li> </ul> </li> </ol>

## (5) 戦略プロジェクトの推進力を高める取り組み

プロジェクトのねらい	<p>戦略プロジェクトは、地域が一体となって取り組むことで大きな成果が生み出される。そのため、人と人との絆やつながりを大切にしつつ、多様な主体による自立した地域コミュニティ活動を促進するための新たなしくみづくりや、その担い手となる人材の発掘・育成を進める。</p>
ねらいに対する評価	<p>多様な主体による自立した地域コミュニティ活動を促進するための新たなしくみづくりとして、地域の多様な主体を包括し「自分たちの暮らす地域は自分たちで創りあげる」という理念を基本とする組織である「地域まちづくり協議会」の設立を進め、平成28年5月を以って、市内全域において22の地域まちづくり協議会が設立された。このことにより、地域の多様な主体を包括し、地域自らが地域課題解決に向けて取り組みを行う新たなしくみをつくることができた。また、平成28年3月、「亀山市地域まちづくり協議会条例」を制定し、地域まちづくり協議会の公共的団体としての位置付けを明確化することができた。</p> <p>担い手となる人材の発掘・育成については、地域関係者や行政職員を対象に地域まちづくり研修を行うとともに、地域担当職員を配置し、各地域での地域まちづくり協議会設立を支援した。また、地域まちづくり協議会設立に向けた各地域での取組みに伴い、各地域での新たな担い手の発掘につなげることができた。</p> <p>今後は、地域まちづくり協議会を中心とした新たな地域まちづくりのしくみが機能を発揮できるよう、地域予算制度の制度化、地域まちづくり計画の策定支援、担い手の発掘・育成など、地域まちづくり協議会への総合的な支援が求められる。</p>
今後の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動を加速させるための地域予算制度の制度設計</li> <li>・地域まちづくり計画の策定支援など地域まちづくり協議会に対する総合的な支援のあり方の検討</li> <li>・地域活動を牽引する人材の育成</li> <li>・地域まちづくり協議会が地域で機能するための体制整備</li> </ul>

プロジェクトリーダー	<p>市民文化部長（H25～） 市民部長（H24）</p>
戦略プロジェクト推進チーム	—
関連組織	亀山市地区コミュニティ研究会
会議開催回数	19回
推進チームで取組んだ主なテーマと成果	<p>1. 多様な主体による自立した地域コミュニティ活動を促進するための新たなしくみづくりと担い手となる人材の発掘・育成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域まちづくり協議会の設立に向けたモデル地区での展開</li> <li>・地域まちづくり協議会の設立の促進</li> <li>・地域担当職員制度の制度設計、支援の開始</li> <li>・市民活動応援制度の制度設計</li> <li>・地域自治に関する有識者会議の設置</li> <li>・地域予算制度の制度設計</li> </ul>

### 3 総括評価

#### (1) プロジェクト全体の進捗管理

プロジェクトリーダー	企画総務部長（H24～）
プロジェクト全体の進捗管理の評価	<p>戦略プロジェクト推進会議において、後期基本計画期間の5年間の中で調査や検討の域を越えて、具体的な取り組みを実践していくという考え方のもと、「短期的」、「スピード感」、「横断的な体制」、「庁内での情報共有」、「優先的」という5つのキーワードを共通の認識として取り組みを進めてきた。</p> <p>具体的には、後期基本計画の前半に当たる3年を調査・研究に充てる期間として、また、後半に当たる2年間を取り組みの実践や具現化の期間と考えて、それぞれのプロジェクトの推進に取り組んできた。</p> <p>前半にあたる平成24年度から26年度にかけて、プロジェクトに関連するテーマの研究及び方策の検討を行った結果については、毎年度、戦略プロジェクト推進会議での報告を行い、その後の方向性を定めながら進捗を確認することができた。また、平成27年度以降、それまでの3年間で積み重ねてきた調査検討結果に基づき、それぞれの主管室において、具体的な事業化に向けた調整やさらなる調査研究を行うことができた。</p>

#### (2) 戦略プロジェクト全体の評価

プロジェクトの位置づけと役割に対する評価	<p>後期基本計画において、4つの戦略プロジェクトを打ち出したことで、そこに位置づけられた施策・事業は重点的かつ政策横断的に取り組む必要があるとともに、その施策・事業が市民と行政との協働によって取り組むべきものであることを明示することができ、施策・事業の実行性に対しては有効に作用した。</p> <p>一方で、今回の戦略プロジェクトでは、プロジェクト毎に推進チームを立ち上げて、個別の調査・検討を行ってきたことから、それぞれの施策・事業の成果と課題を整理することができても、それらの施策・事業が連動して相乗効果を生み出したかどうか、また、それによって計画の推進力が高まったかどうかは見えにくい状況であった。</p>
----------------------	---

今後のプロジェクトのあり方	<p>各プロジェクト及び全体の進捗管理の評価を踏まえ、第2次亀山市総合計画の基本構想に掲げる将来都市像の実現に向けて、特に前期基本計画の5年間の中で重点的に取り組むべき政策や施策を明らかにするとともに、関係する施策や事業の実行性を確保するためには、一定のテーマや視点を持ったプロジェクトを構成することが有効に作用すると考える。</p> <p>《プロジェクトを構成する上でのポイント》</p> <p>(1) プロジェクトの位置付け</p> <p>第1次総合計画での各施策や戦略プロジェクトの達成状況、また社会変化・市民ニーズなどを踏まえ、前期基本計画の5年間において、その成果が強く望まれるものや、必要性や優先度が高いテーマを見据え「重視すべき視点」を持ったプロジェクトを構成する。</p> <p>(2) プロジェクトの推進</p> <p>プロジェクト全体の進捗管理を行うため、庁内での調整・情報共有を行うとともに、プロジェクトの効果を評価するPDCAサイクルの構築が必要である。</p>
---------------	---

